

COVID-19 蔓延下における 4 か国の看護学生が参加する 短期留学オンラインプログラムの実施

Implementation of online program of short-term study abroad for nursing students from four countries
under the COVID-19 pandemic

○藤屋リカ, 深堀浩樹, 浅川翔子, 杉本美希, 杉山大典, バティ, アーロン, 宮脇美保子

Rika Fujiya, Hiroki Fukahori, Shoko Asakawa, Miki Sugimoto, Daisuke Sugiyama, Aaron Batty, Mihoko Miyawaki
慶應義塾大学 看護医療学部

Faculty of Nursing and Medical Care, Keio University

【はじめに】

慶應義塾大学看護医療学部では、2016 年度から短期留学受け入れプログラムを開始し、韓国・中国・英国・米国の協定大学から留学生を受け入れ、本学部からほぼ同数の学生が参加してきた。このプログラムの参加学生からの評価は高く、2019 年度から本学部学生については選択科目（国際看護実践 I）として実施している。2020 年 3 月からの COVID-19 の蔓延のため、2020 年度は全ての海外研修は中止となった。その状況の中、この短期留学受入プログラムについては、協定大学の担当者と協議を重ね、オンラインで実施することを決定し、これまでと同様の期間である 1 週間のプログラムを開催した。今回は、この短期留学オンラインプログラム活動の COVID-19 蔓延下における実施状況について報告する。

【方法】

短期留学学生受け入れプログラムは、協定校の看護学生と本学部学生を対象に開催した。参加者は 33 人で、留学生 19 人（韓国 10 人、中国 5 人、英国 4 人）と本学部学生 14 人であった。米国学生も参加予定であったが、当時 COVID-19 ワクチンの接種を行っていたため本プログラムへは不参加となった。

本プログラムは、オンデマンド教材での学習とリアルタイムでのセッションのハイブリッド形式であり、参加者は事前にオンデマンド教材での事前学習を行い、次いで 5 日間のリアルタイムでのプログラムを行った。リアルタイムでのプログラムでは、時差を考慮して 1 日 60 分のリアルタイムセッション（最終日のみ 90 分）を、Zoom を用いて実施することとした。学生は 5 グループでディスカッションを行い、また、リアルタイムセッションの時間外にも学生が自由なディスカッションや交流ができるための各グループの Zoom のミーティングルームを設定した。プログラム全体のテーマとして「高齢社会と看護職の役割」を設定し、プログラム内容は、第 1 日: 慶應義塾大学と看護医療学部での看護教育、第 2 日: 高齢社会と看護、第 3 日: 訪問看護ステーションを通しての在宅看護、第 4 日: 慶應義塾大学病院での看護、第 5 日: プログラム成果発表、であった。

【結果】

意欲のある学生が参加していたことから、オンデマンドでの事前学習への取組もしっかりしており、リアルタイムセッションにおいて、時間の間違いや遅刻などの問題もなく円滑に実施

できた。リアルタイムセッションでは、オンデマンド事前学習教材に基づく質問を用意しておき、参加者はグループ内で必ずそれを発表することにしたことで、英語を母国語としない学生が多い英語でのプログラムの中で、英語にあまり自信がない学生もしっかりと発言することができていた。学生からはオンデマンド教材は繰り返し視聴できるので理解しやすかったという感想があり、学生のリアルタイムでの発言や発表からも、事前学習教材に対する理解が良いことが伝わってきた。

参加学生は、最終日の成果発表のためにグループごとの独自のグループワークを実施してまとめており、学生の主体性の基づく活動もプログラムの中で見られた。留学生からの発言のなかに、オンラインで学習したからこそ、日本での看護の実際を体験したいという思いが強くなったという趣旨のものが多くあった。また、協定大学の教員もオブザーバー参加しており、学生のグループディスカッション時に、教員間の意見交換の機会を持つことができ、COVID-19 蔓延下での看護教育などについて意見を交わすことができた。

【まとめ】

COVID-19 の世界的な蔓延によって、初の試みとしてのオンラインでの短期留学受け入れプログラムを実施したが、オンライン開催でもオンデマンドとリアルタイムを組み合わせることで学生が積極的に参加できるプログラムが実施できることがわかった。また、講義についてはオンデマンドでの事前学習の利点もあることが示唆された。COVID-19 の蔓延が終息し対面での開催が可能になった場合、今回のオンライン開催での経験を活かして、オンデマンド教材を活用した講義やそれに基づくグループワークは事前にオンラインで実施し、日本では見学体験やディスカッションや学生交流に集中し効果的なプログラムを構成していくという、プログラムの新しい展開も示唆された。

また、学生プログラムの機会を活かして教員間でも積極的に意見交換の機会を持ち、国際共同での教育や研究につなげていくことも重要であると考えられる。

【利益相反】

演題発表に関連し、発表者全員について開示すべき COI 関係にある企業等はありません。